



連携室通信

発行：公益財団法人 老年病研究所附属病院

広報委員会

・ ISO9001 認証取得

日本医療機能評価機構認定病院

老年病研究所附属病院の理念

1. 地域の人々の健康を守るための、研究と実践
2. 疾病の予防と治療に役立つ看護、介護の推進
3. 高齢社会における保健・医療・福祉のネットワーク作り

老年病研究所附属病院の基本方針

1. 最新医療の研究と実践
2. 質の高い安全な医療の提供
3. 多職種によるチーム医療の実践
4. 地域医療および社会への貢献
5. 職員教育の充実
6. 病院経営の安定

院長就任の挨拶

老年病研究所附属病院
院長 佐藤 圭司



令和元年7月から老年病研究所附属病院の院長に就任しました佐藤圭司です。専門は整形外科です。高玉真光理事長に誘われ、当院に就職して31年になります。

38年前、高玉理事長は、高齢者医療が機能を維持する、守りの医療だった時代に、脳血管障害の予防と治療を研究するための研究所と病院を設立いたしました。以来、これまで地域医療、特に高齢者医療、脳外科的に脳卒中、脳神経内科的に認知症、整形外科的に骨粗鬆症による骨折などに力を注いでおりました。常に新しい情報を収集しながら、先進的な取り組みを積極的に取り入れ、高齢者医療の可能性を追求する理事長の姿勢を私も見習っていきたくと思っています。

現在は、高齢者医療も改善を目指せる時代です。それによって生活の質の向上も目標とする医療に変わってきています。

当院では今、骨粗鬆症リエゾンサービスの体制作りを始めています。骨粗鬆症（骨の強度が弱くなり骨折しやすくなる病気）の治療により骨折や介護予防につながります。リエゾンに関係していない職員と患者さん及びご家族に骨粗鬆症の治療を十分ご理解していただけるよう多職種連携で啓蒙し、治療率・継続率の向上をはかるため、骨粗鬆症マネージャー（骨粗鬆症の知識を持った人）の育成をしています。

私が、院長に就任して最初に考えたことは、医療の質の向上に一番欠かせないものは何か、それは、人材育成です。人材の「材」を財産の「財」で表し、「ヒトは財産である」という基本姿勢を打ち出していきたくと思っています。医療においては多数精鋭のスタッフが必要です。精鋭を作るために大事なのは研修です。そして、やりがいを持って働ける職場環境をどう作るかという問題もあります。職員の満足なくしては、患者さんの満足は実現しないと思っています。職員が自信を持って働けるように導きたいと考えています。

そして、令和という新しい時代に、我々は、地域の人々の健康を守るという理念を掲げ、これからも地域の方々に頼られる病院を目指し、職員一同頑張ってお参ります。院長として老年病研究所附属病院のために努力する所存です。前院長と同様に、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

回復期リハビリテーション病棟の概要

看護部 新館回復期リハビリテーション病棟 看護師長 飯塚 敦美

昨年、9月からコラムとして毎月、回復期リハビリテーション病棟の取り組みについて紹介してきました。今月号では改めて回復期リハビリテーション病棟の概要をお伝えしたいと思います。

回復期リハビリテーション病棟の誕生

当院の新館回復期病棟は2017年4月に医療療養型病棟から回復期リハビリテーション病棟に移行した新しい病棟です。当院の回復期リハビリテーション病棟は西棟回復期リハビリテーション病棟（56床）と新館回復期リハビリテーション病棟（58床）を合わせ、計114床を誇る県内有数の病棟です。

回復期リハビリテーション病棟は2000年の診療報酬改定で制度化されました。それまではリハビリを必要とする人たちは一般病棟や総合リハビリ施設などでリハビリ医療を受けていました。

しかし脳卒中などの発症から早期にリハビリすることで機能回復が促進され日常生活動作（以下ADL）の自立が得られることから医療連携のシステムが確立され、診療報酬改定で質の評価が見直しされることで、高機能回復期リハビリテーション病棟の誕生へと発展してきました。

回復期リハビリテーション病棟の特徴

回復期リハビリテーション病棟とは脳血管

疾患または、大腿骨頸部骨折などの患者さんに対して食事・更衣・排泄・会話などのADL能力の向上、寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリプログラムを医師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などが協働して作成し、これに基づくりハビリを集中的に行うための病棟です。

2008年の診療報酬改定で導入された質の評価には在宅復帰率、重症患者の入院割合、重症患者のADL回復度という成果指数が重視されており2018年の診療報酬改定で回復期リハビリテーション病棟の入院料は3区分から6区分となり新館回復期リハビリテーション病棟は2018年9月に回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得することができました。入院料1は在宅復帰率70%以上、重症患者の入院割合は30%以上という条件があります。それに伴う基準に合わせ必要人員も充足されております。

回復期リハビリテーション病棟の取り組み

回復期リハビリテーション病棟の対象となる患者さんの対象疾患は規定されており疾患によって入院日数や発症から入院までの期間は異なります。一般的に急性期病棟で2～4週間の治療後、リハビリ医療を受けるために紹介され入院してきます。急性期病棟から入院した日よりリハビリプログラムが作成され、リハビリが開始されます。一定期間ご

とに病状・回復状況・今後の見通しなどについて、主治医がリハビリ総合実施計画書を使用し、患者さん・ご家族に説明を行います。

当病棟では入院時の ADL の共通認識と安全で快適な入院環境の提供を目的に看護師・介護士・リハビリスタッフが患者さんと一緒に入棟時カンファレンスを行っています。定期的なリハビリカンファレンス（週 2 回）、栄養カンファレンス（週 1 回）、退院支援カンファレンス、その他、必要に応じて NST（栄養サポートチーム）回診、DST（認知症サポートチーム）回診、褥瘡回診を行い、チーム医療の充実を図っています。退院に向けても多職種連携で専門性を生かし在宅や地域生活への復帰支援を行っています。

地域医療連携として医療サービスの質の向上と地域住民の安心な生活を支えることを目的に「群馬脳卒中医療連携の会」、「大腿骨頸部骨折地域連携パス連携病院研修会」に参加し、群馬大学附属病院・前橋赤十字病院などと地域連携パスの運用を行いながら患者さんの受け入れを行っています。

また当病棟では看護協会や回復期リハビリテーション病棟協会研究大会などの発表に向けてリハビリ看護技術の向上に積極的に取り組んでおります。

回復期リハビリテーション病棟の目標

急性期医療における在院日数短縮化が推進されるなか、回復期リハビリテーション対象患者さんを可能な限り急性期病院（病棟）から回復期リハビリテーション病棟に受け入れ ADL を向上させ在宅復帰することが回復期リハビリテーション病棟の役割です。24 時間、365 日途切れることのない患者さんの生活を全職種で支え、患者さんが安心して安全にリハビリ生活を送れるように日々努めてまいります。



新館病棟エントランス



新館病棟病室



老年病研究会のお知らせ(医療従事者向け)



～より良い疼痛治療実現に向けて、新たな選択肢～(案)

日本医師会生涯教育講座 1.0 単位 (仮)
日病薬病院薬学認定 0.5 単位 日本薬剤師研修センター認定
日本薬剤師会生涯学習支援システム (JPALS) 研修会コード: 10-2019-0002-204

日時: 令和元年9月4日(水) 19:00 ~ 20:15

会場: 老年病研究所附属病院 新館6階 講堂

群馬県前橋市大友町3丁目26-8 電話: 027-253-3311

特別講演 19:10 ~ 20:10

座長 老年病研究所附属病院 院長 佐藤 圭司

「運動器疾患における神経障害性疼痛の治療」

演者 自治医科大学 整形外科 教授 竹下 克志

閉会の辞 20:10 ~ 20:15

老年病研究所附属病院 理事長 高玉 真光

※医療従事者向けの講演会です。 ※当日はお弁当を用意しております。



9月の食事会のお知らせ



『骨が喜ぶ食事』～骨粗鬆症予防の食事をご紹介します～

● 日時: 令和元年9月6日(金)

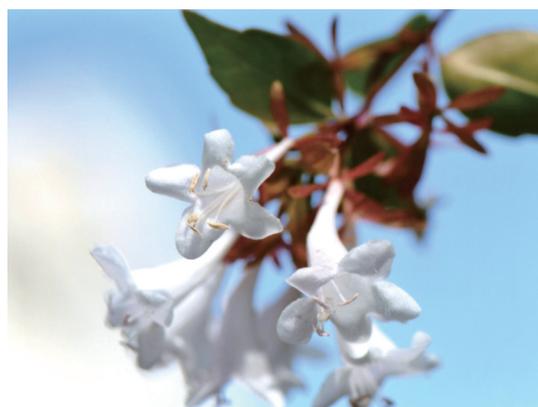
12:00 ~ 講演会

12:30 ~ 食事会

● 場所: 新館6階 講堂

・ ご飯	熱量	408kcal
・ 豆乳味噌汁	蛋白質	29.3g
・ 鮭のきのこあんかけ	食物繊維	9.4g
・ 小松菜の納豆和え	塩分	2.3g
・ きくらげのナムル		
・ フルーツ	担当	管理栄養士 吉澤

参加ご希望の方は病院受付にお申し込みください。
会費 500 円です。



花名: アベリア 花言葉: 強運、謙虚、謙譲
撮影者: 松原信子様

公益財団法人 老年病研究所附属病院

〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8 TEL 027-253-3311 (代表) FAX 027-252-7575 (代表)
E-mail: info@ronenbyo.or.jp ホームページアドレス <http://www.ronenbyo.or.jp/>

地域医療福祉連携室・相談室

TEL 027-253-4108 FAX 027-253-4135